

趙起杲の無念：青柯亭刻本の後4巻について

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2015-05-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 笹倉, 一広 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00008536

趙起杲の無念——青柯亭刻本の後4巻について

赵起杲的遗憾——关于青柯亭刻本的后四卷

笹 倉 一 広

はじめに

青柯亭とは趙起杲(1718?—1766)の齋号であり、彼が乾隆31年に刻した『聊齋志異』、すなわち青柯亭刻本(以下「青本」と略す)は事実上の最初の刻本である。1974年に鑄雪齋鈔本の影印本が発行されるまで、『聊齋志異』はこの青本を底本とした各種注本でのみ読まれてきたとあってよい。今なお青本を底本とした出版も行われている。起杲の『聊齋志異』出版史上に占める位置は非常に大きい。その青本16巻を紐解けば、判然と前12巻と後4巻が性格を異にしていることに気付く。この理由は起杲自身が「例言」の中で記しているように、最初「雅」なるもの12巻の選本の編集を進め、版刻が終わったあと、残余の篇を捨てるに忍びず合刻したためである。しかし、後4巻は余集が「題詞」で「後四巻は則ち附属の者なり」といつているように、単に趙起杲の手で付け足して刊行されたのであろうか。実は後4巻の中にも何かをしようとした形跡があり、「聊齋癖」趙起杲のもう少し複雑なドラマがよみとれるようだ。いささか些末なことであるが、それを本論では紹介し、あわせて文人と小説の関わりの一例として提示したい。尚、本稿は1991年10月山東省淄博市で開催された第1回国際聊齋学討論会における口頭発表に加筆したものである。

I. 青本はどのように刊刻されたか

まず青本の成立過程を序文などから整理しておく。

- ①乾隆11年(1746) 趙起杲は済南から帰った周季和より『聊齋志異』の部分鈔本2冊を贈られる。趙起杲は全部を見られないことを残念に思う。(「弁言」)
- ②乾隆22年(1757) 趙起杲が北京に赴いた際、周季和鈔本を王閏軒に持ち出される。(「弁言」)

- ③ 閩に赴任中、蒲松齡の故郷山東に赴任した経歴を持つ鄭方坤は必ずや『聊齋志異』の鈔本を持っているに違いないと考え、その息子を訪ねたところ、『聊齋志異』の全鈔本を蔵していた。そこで、正副2鈔本を作った。周季和鈔本とは異同があったらしい。(「弁言」)
- ④ のち3年して、再び北京へゆく。周季和鈔本や吳穎思蔵鈔本と比較し、鄭鈔本が原稿本と確認する。(「弁言」)
- ⑤ 乾隆28年(1763)趙起杲は杭州府同知に任官。趙起杲自身も出版の意志があり、蔵書家で『知不足齋叢書』で有名な友人の鮑廷博にも出版を勧められる。が、躊躇する。(「弁言」「紀事」)
- ⑥ そののち鈔写のための借覧に応じきれなくなったので、ついに刊行を決意する。(「弁言」)
- ⑦ 乾隆30年(1765)巖州知府となる。3月、幕客の余集に『聊齋志異』の審定を命ずる。(「余集序」)
- ⑧ 同11月、余集は序を撰して会試受験のために幕下をたつ。(「余集序」)
- ⑨ 乾隆31年(1766)1月。趙起杲と鮑廷博は呉山で会う。趙起杲は16巻を削って12巻にしているが、実は残りの4巻も鮑廷博に刊行してもらいたいことを話す。(「紀事」)
- ⑩ 同5月。前12巻の刊刻が終了する。趙起杲は弁言と例言を撰したあと、童試の試験場で急死する。(「紀事」)
- ⑪ 趙起杲の没後、趙起杲の弟の依頼を受けて鮑廷博が刊刻を続け、起杲の没後7カ月に16巻全部の刊刻が完成する。(「紀事」)

以上が青本刊刻の経緯である。

II. 手順のあらまし

青本が前12巻と後4巻に分割でき、前12巻はおもに伝奇的な諸篇を、後4巻にはおもに志怪的な諸篇をあつめていることは一読して判る。それは前章で確認した取捨選択の作業があったからである。繰り返すが、起杲の使用した底本は16巻本であったが、そのまま刻したのではなく、まず12巻の選本をつくり、そののち残りの4巻をつけて現在の16巻の青本が構成されているのである。

本論では篇次に特に注目する。篇次とは、一般に巻数の順番を巻次というように、『聊齋志異』約500篇の各篇の順番をいう。

議論が複雑になるので、あらかじめその手順を記しておく。

1. 趙起杲が使用した底本の篇次を再生する。

議論が前後するが、表1を御覧頂きたい。これは青本と鑄雪齋鈔本（以下「鑄本」と略す）の篇次を対応させたものである。鑄本は、公開されている鈔本の中では原稿本（蒲松齡自筆といわれるもの。現存4冊）の篇次を最も忠実に伝えていると思われる鈔本である。次の2点が認められる。

①対応させた鑄本の篇次が小→大へと数字が並ぶ部分がある。

②しかし、その連続は一貫しておらず、前後に断層や逆転が見られる。

例：青本No44とNo45の間の断層、青本No45～55とNo63～76の逆転

このことから、次の事が推測できる。

③編輯作業は全く無秩序に行われたのではなく、趙起杲は底本の篇次を保ちつつ取捨選択作業を行った。

④底本の篇次は鑄本（≡原稿本）の篇次を部分部分では保ちつつも、その部分の順序は異なる。これは巻次の乱れに起因するのではないか。

そのため趙起杲が使用した底本を再生する作業が必要となる。

2. 後4巻の乱れを調査する。

底本の篇次巻次が確定した後、その頭から佳篇を選んでゆけば、青本の前12巻の篇次は底本の篇次と平行になるはずである。また、事実そうになっている。そうならば、その自然の結果として、選に漏れた諸篇も後4巻に底本の篇次に沿って並ぶ筈である。ところがそうはなっていない。

3. 後4巻の乱れの原因を考察する。

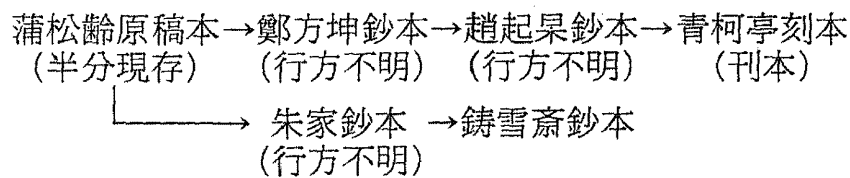
2.を確認した上で、後4巻の篇次の乱れの原因を考えてゆく。

III. 底本の篇次の再生

上に概述したように、青本の編輯で使用した底本の篇次は、蒲松齡の原稿の篇次とは異なっている。より正確に言えば、後述のように、巻次が異なっているのであって、各巻の中の篇次はおおむね正しいと思われる。その底本全体の篇次が知りたい。

成立過程の検討の際に述べたように、底本は鄭方坤が鈔写したものの再鈔

本であった。趙起杲の言を信ずれば蒲松齡の自筆原稿の2次鈔本であったことになる。推定される巻次の乱れは二度の鈔写の際に生じたのであろう。この鈔本についての消息は今日伝わらない。失われた底本の篇次を知る手がかりは、その底本である鄭方坤の鈔本だが、これも行方が知れぬ。そのまた底本、すなわち蒲松齡の自筆原稿は存在するが、今日伝わるのはその約半分ではない。そこで、今日一般に公開されている鈔本の中では最も原稿の篇次の原貌を伝えていると考えられる鑄本、特にその目録の篇次を原稿本の篇次の代用として使用し、これを利用して趙起杲の使用した底本の篇次を再生してみよう。以下本論で鑄本篇次という場合は目録の篇次をいうものとする。



鑄本は済南の張希傑が乾隆16(1751)に同じ済南の朱家の鈔本から鈔写したものである。朱家鈔本は、蒲松齡と交友の深かった朱緇の息子のうちの殿春亭と号する者が、張元(蒲松齡の墓表を撰す)の息子張作哲を通じ、蒲家から原稿を借り受け雍正元年(1723)に鈔写したものである。

いま、鑄本の本文を避け、目録の篇次を使用する理由は

- ①本文の篇次は、紙幅の調整、後代の破損・修理等により原貌を失っている。
- ②本文篇次に比して、目録の篇次の方が残存稿本の篇次と殆ど一致する。

ということによる。

まず表1「青本鑄本篇次No.対照表」をご覧いただきたい。(鑄本の篇名と番号については表2「鑄本青本篇次No.対照表」参照)これは青本の篇次に鑄本の篇次を対応させたものである。行数を付したのは物語が伝奇的なものか志怪的なものかの便宜的な判断基準として使うためである。また、評は鑄本の本文の題名の上につけられているもので、○○○、○○、○の三種類および無印(表では便宜上×としておいた)の計4種類がある。施評者は不明である。ちなみに○○○は114篇、○○は59篇、○は65篇、×は152篇である。

全体を見渡すと次の事に気づく。

- ①後4巻のものは行数が少ない。即ち、志怪的なものが多い。
- ②評の良いものは前12巻に集中している。趙起杲や余集の雅に対する認識は一般とそれほど大きな隔たりはないといえよう。
- ③前12巻中においても巻末に後4巻的諸篇が集中している。
- ④対応させた鑄本の篇次はおおむね小→大へと流れる。但し、前述のように断層や逆転が見られる。これは青本の底本と巻内での篇次は同じであるが、巻次は異なるらしいことを意味していると考えられる。

次に、④に注目して12巻だての鑄本を16巻に分けてみよう。起杲の使用した底本は16巻だてであった。ここで使用するのは表2「鑄本青本篇次No対照表」である。この表は表1とは逆に鑄本の篇次に青本の篇次を対応させたものである。各篇が前12巻、後4巻のいずれに属しているかもわかるようにしてある。この表の番号の連続の流れの切れ目、4冊の残存原稿本、1巻の篇数の目安が30篇程度になることなどから考えて次のように分割した。

- ①鑄 1～35 ①・②の間には明確な切れ目がないので、量的に半分の所で切る。
- ②鑄 36～63 ②の終わりは、稿本第1冊の終わりに対応すると考えて切った。
- ③鑄 64～86 鑄87・89は100・104と共に青本の巻4の巻末補充に使われているので、④に属するとする。
- ④鑄 87～111 112から稿本第2冊。
- ⑤鑄 112～141
- ⑥鑄 142～172 173から稿本第3冊。
- ⑦鑄 173～205
- ⑧鑄 206～241 241は稿本第3冊の最後。
- ⑨鑄 242～273
- ⑩鑄 274～307
- ⑪鑄 308～329
- ⑫鑄 330～378 379から稿本第4冊。
- ⑬鑄 379～399
- ⑭鑄 400～417 417は稿本第4冊の最後。
- ⑮鑄 418～453
- ⑯鑄 454～488

以上、鋳本は16巻に分割できた。しかし、これらが各巻が青本に表われる順序は非常に前後している。出現順に並べると

①→②→③→⑮→⑭→⑥→④→⑤→⑨→⑦→⑩→⑬→⑧→⑫→⑪→⑯

となる。表3をご覧いただきたい。これは鋳本篇次をこの趙起杲の使用した底本の巻次に並べ換え、各篇の青本の前12巻・後4巻への帰属を一覧にしたものである。特に前12巻への帰属の欄に注目されたい。*を付したものが番号の流れを阻害するが、これらは青本の前12巻の各巻末補充部分である。これらについては後述のように、本来前12巻に属するものではないので、除外して眺めると、ほぼ一貫して乱れる事なく青本Noが小→大へ趙起杲の使用した底本の巻1から巻16まで流れてゆく。断層・逆転は巻次の乱れに起因する事が確かめられたと思う。趙起杲らが使用していた底本の篇次は、細かい錯綜はあるものの、おおむねこのようになっていたと考えられる。これを起杲の使用した底本（以下「仮想底本」と称す）とし、新たに巻数を（ ）を付して呼ぶことにする。その対応は、

仮想底本	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)
16分割鋳本	①	②	③	⑮	⑭	⑥	④	⑤	⑨	⑦	⑩	⑬	⑧	⑫	⑪	⑯

となる。

IV. 後4巻の乱れとその原因

さて、前章で確認したように、青本前12巻の篇次は仮想底本の篇次を遵守しつつ抽出されたものであった。時に孤立するものもあるが、鈔写を重ねているので、その際にこれらのものは配列を変更されたため錯綜しているであろう。いわば事故的なものである。ここでは個々にその原因や本来の位置を追及しない。それでは、青本の後4巻についてはどうであろうか。底本から「雅」なるもの12巻を選びその篇次が底本の篇次をとどめているならば、残った「雅」ならざるもの4巻も底本の篇次順に並ぶべき筈である。ところがそうはなっていない。表2の後4No.の欄からも確認できる。それをさらに明らかにするために表4「後4巻帰属表」を作成した。

一見して明らかのように、単純に(1)(2)(3)(4)の順には並ばず、底本の篇次は遵守されていない。しかし、そうかといって、全く順序がないというわけでもなく、グループを形成している。一つのグループしか作っていない(15)や(11)の例がある一方、(1)(2)のように2つのグループを形成しているものもある。

整理しやすくするために表に記したようにグループに名前をつけた。

このような後4巻における諸篇の分布は単なる偶然とは考えにくい。必ず誰かが何かの意図をもって行ったものと思われる。これは雅でない残り物にさらに取捨選択を行おうとしたのではないのだろうか。例えば(1)₁と(1)₂を比べてみる。表1から(1)₁と(1)₂を抜き出してみよう。ただし、(1)に属さない青本No.250、No.388は除外する。

(1) ₁					(1) ₂				
青No.	篇名	鑄No.	鑄本評	行数	青No.	篇名	鑄No.	鑄本評	行数
241	尸変	3	×	27	382	耳中人	2	×	9
242	噴水	4	×	12	383	咬鬼	8	×	15
243	山魃	7	×	16	384	捉狐	9	×	10
244	菽中怪	10	×	13	385	斫鱗	18	○	8
245	王六郎	12	○○○	52	386	野狗	25	×	11
246	蛇人	13	○○	35	387	狐入瓶	27	×	5
247	雹神	20	×	16	389	真定女	29	○	4
248	僧孽	23	○	10	390	焦螟	30	×	15
249	三生	26	○○	26	391	宅妖	11	×	12
251	宅妖	28	×	11	392	靈官	35	×	12
252	四十千	32	○	10					

(1)₁の方が評がよく、(1)₁の方に行数の多いややストーリー性を感じさせるものがあるのに対して、(1)₂の方には「靈官」など汚い話が多い、といったおぼろげながら特徴が見いだせる。ほかのグループでは、(2)₁と(2)₂では(2)₁には恩や義というものを扱った話「丁前溪」「義鼠」などがあるのに(2)₂には見られない。(3)₁と(3)₂では(3)₁にはストーリー性の他に「某公」のように善を勧めるものがあるのに対して、(3)₂では「江中」「龍」など志怪・怪奇ニュースといった性格の篇が多い。しかし、この区別も明白なものではなく、どちらにも考えられるような篇が少なくない。(1)(2)(3)については何とか言えても(13)₁(13)₂・(14)₁(14)₂になると殆ど差は見つけられない。

しかし、(1)(2)(3)(4)までは作品の優劣で分け、それ以後は別人が別の尺度、ないしは無作為に分けたものとも考えられる。その可能性を示唆するのが、青本前12巻末に付された志怪的諸篇である。これについて詳しく見れば以下のようなものである。

- ・ 卷 1 なし
- ・ 卷 2 33「伏狐」以下 7 篇
- ・ 卷 3 57「番僧」以下 6 篇
- ・ 卷 4 77「金和尚」以下 5 篇
- ・ 卷 5 97「大力將軍」
- ・ 卷 6 114「狐聯」
- ・ 卷 7 129「余徳」
- ・ 卷 8 146「聶政」以下 3 篇
- ・ 卷 9 162「羅祖」以下 7 篇
- ・ 卷 10 183「鄱陽神」以下 8 篇
- ・ 卷 11 205「布商」以下 7 篇
- ・ 卷 12 227「豢蛇」以下 8 篇

16 卷の青本『聊齋志異』は序や題詩、目録などを収める巻 1 が 86 葉であるのを除くと、各巻が 67、8 葉である。12 巻選本を取りやめて 16 巻で刊刻することになり、単純に選に漏れた分を後 4 巻として付刻する事にし計算をしたら、そのままでは後 4 巻の葉数が前 12 巻より増え体裁が悪い。そこで、後 4 巻の一部を前 12 巻の各巻末に付したと推定する事ができる。これらの諸篇が表 3 の前 12No. の欄で数字の流れを阻害しているのはこのためである。

さらにこれらが仮想底本のどの巻から持ってこられたかを列挙してみると、

青本巻次	仮想底本巻次
・ 卷 2	(7)(4)(6)(6)(6)(6)(13)
・ 卷 3	(8)(8)(8)(8)(8)(9)
・ 卷 4	(11)(7)(7)(7)(7)
・ 卷 5	(13)
・ 卷 6	(3)
・ 卷 7	(8)
・ 卷 8	(9)(9)(9)
・ 卷 9	(9)(9)(10)(10)(10)(10)(9)
・ 卷 10	(10)(10)(11)(11)(11)(11)(11)(12)
・ 卷 11	(12)(12)(13)(13)(13)(13)
・ 卷 12	(13)(14)(14)(14)(14)(15)(15)(15)

となっている。この表からも判るように、前 12 巻の補填も仮想底本の巻次に沿った形で進められている傾向がある。ところが、(1)(2)(3)(4)(5)には(3)(4)の各 1 篇を除いて使用された篇はない。全体的にみてこの 2 篇の錯綜は或いは底本篇次の錯綜に起因することとも考えられよう。つまり、仮想底本の前 5 巻からの補填を故意に避けていると見られる。これは後 4 巻附刻の任にあたった鮑廷博が、単なる丁数あわせの為だけに仮想底本前 5 巻の篇次に手を加え

ることを忌避したのではなかろうか。つまり、(1)(2)(3)(4)(5)の部分には選余の篇についても整理が行われていたため手をつけなかったのであろう。それは鮑廷博の尊敬する人物、趙起杲をおいて他には考えられない。この整理作業が半ばにしてやんでいるのは起杲の急死によるものであろう。

起杲は乾隆30年の3月、余集と編集を開始した。11月に余集は序を撰した上で会試に旅立った。このとき12巻選本の編集作業はほぼ完成していたに違いない。起杲は1月に鮑廷博に残り4巻分が刊刻できず、公にならないことを遺憾に思い、その残り4巻を鮑廷博に審定刊刻して欲しいと漏らしている。鮑廷博は「唯唯」と承諾しているが、この返事は生返事だ。ここには残り4巻がすでに自分では刊行できないとする諦めの気持ちが窺える。そうして、5月に12巻の版刻がなった。この1月から5月の間、起杲が『聊齋志異』に対しても何もしていなかったのだろうか。きっと残り4巻について吟味を加えていたに違いない。1巻でも刊刻の機会があれば刊刻できるように、選余の篇についてさらにランクづけを行っていったのだ。しかし、残りの部分はいつ刊刻されるとも判らぬため前12巻の時のような速さではすすまなかったのだろう。機会、即ち資金に余裕ができた時に、といってもおそらく借金をしてそのめどはもっていなかっただろうが、刊行するつもりで一人でこつこつ進めていたのであろう。ところが、おもいもかけず、丁度12巻の版刻が終了した5月に「弁言」を書いたところで頓死してしまったのである。まだこのころ起杲の子供は父の遺志を果たせるほどには成長していなかった。起杲の弟の依頼もあり、1月の趙起杲との話もあり、その遺志を鮑廷博が継いで後4巻も刊刻したのである。16巻への変更は趙起杲を追悼するためのものに他ならない。単に起杲の「例言」の言うように「惜しくなって付刻する」という理由だけでは、急な出版計画の変更と、この後4巻に見られる事情に説明がつかない。「例言」は起杲の死後書き改められたものであろう。後4巻刊刻の原稿となったのは起杲の手がけていた残稿であった。これを無視することはできる筈がなかった。16巻の丁数を整えるために前12巻の最後を増やす埋め草には起杲が整理してしまった部分からもってくることは出来なかったのである。

趙起杲は後4巻を刊刻出来ない事を遺憾に思い、その遺憾のうちに急逝した。その結果、起杲の遺憾は友人鮑廷博の手によって成就された。もし、起杲の急逝がなければ後4巻は刊刻されることがなかったろう。

V. どうして12巻選本を作ろうとしたか——経済的側面から

趙起杲は『聊齋志異』をこよなく愛したにもかかわらず、その完全な出版ではなく、12巻という選本での刊行を思い立ったのか。理由は経済的側面からと精神的側面からの二つが考えられる。経済的側面からの理由を簡単に言えばそれは彼には金が無かったからである。起杲の伝記資料をみても、その経済的困窮についての記述が多い。

- ・俸給では不足で、質入れをして刊刻事業を継続した。（「紀事」）
- ・この本の出版にあたって、出資し事を進めてくれたのは鮑廷博氏（「弁言」）
- ・趙起杲は無欲に甘んずる性格で、食事は一品、服も重ねて着なかった。十数年も任官したが、財布は空っぽだった。古田に赴任していたとき、大きな借金をし、資産を売り払ってやっと返済した。（『萊陽県志』）
- ・嚴州は浙江でも瘦せた土地柄で、いつも給料の欠配に困っていた。（「墓誌銘」）

以上のような具合である。それでも地方官であったのだから幾許かの蓄えもあったかもしれない。では、『聊齋志異』の刊刻にはどの程度の費用が必要であったであろうか？

「武英殿聚珍版程式」に見える金簡の乾隆38年10月28日の奏議によれば、
版木1枚銀1錢　　字刻100字銀1錢（版下書料・刻料）
という。版木の大きさ、出版の格の違いを考慮にいれず、乱暴ではあるが、これをそのまま『聊齋志異』に当てはめると『聊齋志異』16巻版木1,076枚約400,000字を刻するのには銀41,000両弱の費用がかかる計算になる。（12巻ならその3/4で30,750両）

一方役人の給料の方は、『清史稿』によれば、年俸で

知県正7品——銀 45両　米 22.5石

同知正5品——銀 80両　米 40.0石

知府従4品——銀 105両　米 52.5石

（米1石は銀1両2錢相当）

となっている。俸給だけではとても書籍の刊行などは無理なのであった。給料だけでは足りないので質入れしながら刊刻をつづけたとあるのももつともである。趙起杲は全面的に財政を鮑廷博に頼ったのではなく、自分が主な出資者であり、鮑廷博はその補助的立場にあったと考えられる。これが16巻を

12巻で刊刻しなくてはならなかった理由であろう。

VI. どうして12巻選本を作ろうとしたか——精神的側面から

もうひとつ、精神面からの理由を考えたい。それにはまず趙起杲の人物を知る必要がある。

趙起杲はたびたびの受験にもかかわらず郷試にも合格できず、いわゆる栄達の人ではなかった。そのためか伝記資料も少ない。後年知府・同知を歴任するが、彼の詩文集は刊行されてはいないようだ。筆者の入手できた彼の伝記資料は次の2つである。

①『萊陽県志』（国民24年 鉛印本）

②蕺州太守趙公暨両夫人合葬墓誌銘 余集撰

②の墓誌銘は起杲の没後20年（乾隆51）後、妻の（妻は二人いた）張氏が没し、起杲の第4子午彤が余集に執筆を乞うたものである。余集は承知のように起杲の幕下から進士に合格した人物で、青本の成立に重要なかかわりをもつ。余集は行状に基づいて墓誌銘を撰したというが、行状については捜し当たらなかった。

この二つに基づいて彼の伝記を整理してみよう。

起杲の正確な生年・生地はわからない。墓誌銘に最初の任官が40歳前というところから類推すると康熙57（1718）年頃の生まれである。父は昌化公とのみ知られる。萊陽県志にみえる趙莘がその人にあたると思われる。莘は歳貢で霑化県の教諭になったのち雍正3年に浙江の昌化県知県に転じているから、起杲は萊陽の地で生まれたものと思われる。ここで少し起杲の父、趙莘に触れておく。資料は『萊陽県志』である。

趙莘、字は東野、幼くして父と死別し、母の手で育てられた。歳貢で霑化県教諭を授けられ、雍正3年に昌化県知県になった。清廉潔白な人柄で、徴税の際の火耗（銀納での鑄造費分の付加税）を徴収しなかったことについての上官の譴責を頑としてうけつけなかった等した。その人柄が災いし巡撫へのもてなしが足らず誣告罷免され、以後は故郷で母を養い子を教育したとある。起杲の十代は父の隠居後に相当し、起杲らの教育はこの父が当たった。おそらく父は誇りを持って己の清廉潔白の哲学を子に教え、自分の遺志を継いでくれる事を期待したに違いない。この父も母親の死に遇い、孝行者のあまり後を追うように死んでしまう。起杲がまだ20歳になる前のことであった

ろう。

起杲は長男で、下に3人の弟がいた。父の死後起杲兄弟は山の別荘にこもり、お互いを師友として学問に励んだという。師につくだけの経済的余裕がなかったのである。が、その甲斐もなく兄弟揃って郷試に臨むものの何度受験しても合格できなかった。そうこうしているうちに次弟、三弟と死に、末弟の起杭と二人きりになってしまった。官を金で買うことは起杲の潔しとする所ではなかったろうが、当時の清代社会、官につき家名を上げることがなよりの名誉である。一応の資格もあるし、弟の勧めもあって金で連江県知県の職を買う。萊陽県志ではその前に漳州府の南勝知県の役所勤めをしたことになっている。ここでの功績が連江知県を金で買う事を可能にした下地になったのであろう。連江の次に古田に任官する。ここで新寧からの脱走犯を捕まえて巡撫に誉められたと言う。また萊陽県志では裁判に滞りがなく巡撫に誉められたと言う。父は巡撫に誣告されたことと比べ、彼の心中はいかがであったか。ともあれ、彼はその力量を買われて杭州府同知に抜擢される。高宗南巡にあたり道路整備がよく、為に嚴州知府を授けられた。任官早々童試の監督の最中に発作を起こして死んでしまった。50歳に満たない短い一生であった。

一見したところ、彼の一生は父の代からしてあまりうだつのあがらなかった一地方官の一生という印象を受けるかもしれない。しかし、実は萊陽県において趙氏は唐代以来の名家なのである。試みに『萊陽県志』の人物志を紐解けば、そこに登場する趙姓の人々はことごとく1つの趙氏の家系に連なり、挙人・進士を輩出している。進士は清代になって趙起杲の同世代の一人を含めて9人、挙人は10人を数える。起杲の次子未彤と4子午彤も、父起杲の死後ではあるが挙人進士となった。

このことは彼の生活に対して「名門」という重圧をかけていたに相違なく、その一挙手一投足に読書人としての振る舞い、すなわち「小説」、たとえそれが文言でも、には手を染めぬという態度、が要求されていたと考えられる。紙幅の関係で論証は省くが、『聊齋志異』が蒲松齡の死後50年も刊行されなかったこと、済南の朱家で一度は刊行されそうになりながら中止となったこと、青本以前には唯一志怪小説集の『説鈴』を除いて志怪書の刊行が行われていなかったこと、青本の度重なる印刷が後代の志怪書刊行の呼び水となったこと、起杲自身出版を躊躇していたことなどはその圧力を証明するもので

ある。

しかし、他方、彼には蒲松齡と同じく志を遂げられない文人という顔を持っていたことも事実である。好事家の顔をのぞかせやすい境遇でもある。また、彼の手元には『聊齋志異』のかなり信頼できる鈔本があった。借りに来る人々も後を絶たない。刊行すれば最初の刊刻者ということにもなる。この二つの要求の妥協の産物として考えられたのが、「雅」なるものを選んで12巻で刊行という計画ではなかったのだろうか。

使用テキスト：青 本：『聊齋志異原稿及趙刻合編』 1978 台湾 鼎文書局
鈔 本：『鑄雪齋鈔本聊齋志異』 1974 上海人民出版社
その他：『聊齋志異会校会注会評本』張友鶴輯校 1978新1版
上海古籍出版社

表1 青本鑄本篇次No.对照表

青No.	題名	鑄No.	鑄本評	行数	青No.	題名	鑄No.	鑄本評	行数	青No.	題名	鑄No.	鑄本評	行数
1	【卷1】				72	痴聖神霞續尚僧電醫生	412	○○○	63	143	胡僧柳二	277	○○○	72
2	【卷1】				73	天蛇	413	○○○	50	144	胡僧柳二	278	○○○	16
3	【卷1】				74	秋和	414	○○○	71	145	胡僧柳二	280	○○○	54
4	【卷1】				75	晚白金	416	○○○	78	*146	胡僧柳二	247	○○○	10
5	【卷1】				76	秋和	417	○○○	101	*147	胡僧柳二	247	○○○	46
6	【卷1】				*77	晚白金	288	×	42	*148	胡僧柳二	279	×	6
7	【卷1】				*78	秋和	87	×	12					
8	【卷1】				*79	晚白金	89	×	8					
9	【卷1】				*80	秋和	100	×	9					
10	【卷1】				*81	晚白金	104	○○	12					
11	【卷1】				【卷5】	狐統小辛	143	○○○	57	149	胡僧柳二	379	○○○	135
12	【卷1】				82	狐統小辛	148	○○○	107	150	胡僧柳二	283	×	46
13	【卷1】				83	狐統小辛	150	○○○	20	151	胡僧柳二	248	○○○	93
14	【卷1】				84	狐統小辛	152	○○○	141	152	胡僧柳二	285	○○○	96
15	【卷1】				85	狐統小辛	153	×	23	153	胡僧柳二	287	○○○	108
16	【卷1】				86	狐統小辛	159	○○○	36	154	胡僧柳二	293	○○○	72
17	【卷1】				87	狐統小辛	152	○○○	142	155	胡僧柳二	298	○○○	72
18	【卷1】				88	狐統小辛	402	○○○	31	156	胡僧柳二	304	○○○	46
19	【卷1】				89	狐統小辛	91	○○	86	157	胡僧柳二	381	○○○	56
20	【卷1】				90	狐統小辛	92	○○○	18	158	胡僧柳二	281	○○○	25
21	【卷1】				91	狐統小辛	93	×	18	159	胡僧柳二	384	○○○	92
22	【卷1】				92	狐統小辛	96	○○○	89	160	胡僧柳二	392	×	114
23	【卷1】				93	狐統小辛	98	○○○	103	161	胡僧柳二	393	○○○	102
24	【卷1】				94	狐統小辛	99	○○○	103	*162	胡僧柳二	255	×	24
25	【卷1】				95	狐統小辛	102	○○○	42	*163	胡僧柳二	265	×	12
26	【卷1】				96	狐統小辛	472	○○○	39	*164	胡僧柳二	175	×	6
27	【卷1】				97	狐統小辛	219	○○○	33	*165	胡僧柳二	182	×	4
28	【卷1】				98	狐統小辛	112	○○○	38	*166	胡僧柳二	186	○○○	8
29	【卷1】				99	狐統小辛	116	×	19	*167	胡僧柳二	187	×	3
30	【卷1】				100	狐統小辛	103	○○○	71	*168	胡僧柳二	272	×	3
31	【卷1】				101	狐統小辛	105	○○○	33	169	胡僧柳二	398	○○○	125
32	【卷1】				102	狐統小辛	108	○○○	66	170	胡僧柳二	394	○○○	33
33	【卷1】				103	狐統小辛	109	○○○	73	171	胡僧柳二	395	○○○	102
34	【卷1】				104	狐統小辛	110	○○○	98	172	胡僧柳二	396	○○○	91
35	【卷1】				105	狐統小辛	118	○○○	65	173	胡僧柳二	397	○○○	125
36	【卷1】				106	狐統小辛	119	○○○	53	174	胡僧柳二	382	○○○	44
37	【卷1】				107	狐統小辛	120	○○○	19	175	胡僧柳二	211	○○○	167
38	【卷1】				108	狐統小辛	121	○○○	48	176	胡僧柳二	216	○○○	74
39	【卷1】				109	狐統小辛	124	○○○	34	177	胡僧柳二	221	○○○	45
40	【卷1】				110	狐統小辛	130	○○○	123	178	胡僧柳二	223	○○○	113
41	【卷1】				111	狐統小辛	132	○○○	91	179	胡僧柳二	232	○○○	40
42	【卷1】				112	狐統小辛	131	○○○	139	180	胡僧柳二	234	○○○	68
43	【卷1】				113	狐統小辛	135	×	75	181	胡僧柳二	335	○○○	27
44	【卷1】				*114	狐統小辛	77	×	9	182	胡僧柳二	313	本	文欠
45	【卷1】				【卷7】	狐統小辛	125	○○○	54	*183	胡僧柳二	192	×	6
46	【卷1】				115	狐統小辛	136	○○○	66	*184	胡僧柳二	202	×	3
47	【卷1】				116	狐統小辛	243	○○○	26	*185	胡僧柳二	286	×	5
48	【卷1】				117	狐統小辛	246	○○○	44	*186	胡僧柳二	289	×	9
49	【卷1】				118	狐統小辛	251	○○○	136	*187	胡僧柳二	292	×	5
50	【卷1】				119	狐統小辛	253	○○○	55	*188	胡僧柳二	301	本	文欠
51	【卷1】				120	狐統小辛	257	○○○	137	*189	胡僧柳二	305	本	文欠
52	【卷1】				121	狐統小辛	258	○○○	85	*190	胡僧柳二	380	○	17
53	【卷1】				122	狐統小辛	261	○○○	87					
54	【卷1】				123	狐統小辛	262	×	20	191	胡僧柳二	238	○○○	44
55	【卷1】				124	狐統小辛	264	○○○	93	192	胡僧柳二	330	○○○	37
56	【卷1】				125	狐統小辛	267	○○○	27	193	胡僧柳二	332	○○○	37
57	【卷1】				126	狐統小辛	268	○○○	116	194	胡僧柳二	336	○○○	96
58	【卷1】				127	狐統小辛	173	○○○	91	195	胡僧柳二	338	○○○	88
59	【卷1】				*129	狐統小辛	127	○	33	196	胡僧柳二	341	○○○	96
60	【卷1】				【卷8】	狐統小辛	176	○○○	99	197	胡僧柳二	342	○○○	88
61	【卷1】				130	狐統小辛	177	○○○	44	198	胡僧柳二	345	○○○	95
62	【卷1】				131	狐統小辛	180	○○○	71	199	胡僧柳二	358	○○○	94
63	【卷1】				132	狐統小辛	183	○○○	100	200	胡僧柳二	362	○○○	45
64	【卷1】				133	狐統小辛	185	×	101	201	胡僧柳二	365	○○○	113
65	【卷1】				134	狐統小辛	193	○○○	64	202	胡僧柳二	314	○○○	139
66	【卷1】				135	狐統小辛	194	○○○	65	203	胡僧柳二	316	○○○	80
67	【卷1】				136	狐統小辛	195	○○○	23	204	胡僧柳二	319	○○○	95
68	【卷1】				137	狐統小辛	197	○○○	63	*205	胡僧柳二	389	○	13
69	【卷1】				138	狐統小辛	204	○○○	50	*206	胡僧柳二	390	×	5
70	【卷1】				139	狐統小辛	205	○○○	78	*207	胡僧柳二	217	×	19
71	【卷1】				140	狐統小辛	34	○○○	24	*208	胡僧柳二	218	×	4
					141	狐統小辛	274	○○○	136	*209	胡僧柳二	230	×	7
					142	狐統小辛	274	○○○	136	*210	胡僧柳二	233	×	6
									*211	胡僧柳二	213	×	6	
									【卷12】					
									212	胡僧柳二	320	○○○	101	
									213	胡僧柳二	322	○○○	116	

題名	青No.	評	本	行	題名	青No.	評	本	行	題名	青No.	評	本	行
猛島娘成庵生良夏針候蝶戀蛇生振量戸如戸	214	○	○	100	容侯狂技鶴官僧鬼別仙士夫獸史人才子生輝市生牙僧飛聽瘰三生官夫虫天神石鬼雲公畜刀狐	165	○	○	39	蝶戀蛇生良夏針候蝶戀蛇生振量戸如戸	296	○	○	7
期惣子桂 蓬孫	215	○	○	23	蔡陽酒武鶴商西泥夢蘇單五黑郎大楊董冷狐山孫沂死牛鏡牛周割庫金酒義岳鷹配廂地張造快汾	166	○	○	20	放鬼医夏河澗河社林大胡 藥太農郭查義楊張巧耳咬捉研野狐干真集宅蠶16	299	○	○	15
王奇緒公幼植粉錦屏參狂孫張紅負鞠盜門	216	○	○	71	英武 三 道大 秀公 愨 秀	167	○	○	65	間 大狼 僧医婦安洞大洪土仙人鬼狐蟒狗楯江女孽妖官	302	○	○	19
桃枝園子溪嵐愛水魃怪郎人神孽生八妖千王狐公吏訓氏女大差受十班縁匠仙生價怪生詐塚鴨妖子雷瓶檢	217	○	○	45	御 秀公 愨 秀	168	○	○	24	牙山 大貢 中 入定 貨 亮 弊 太 中子 陵 鴻象和 尚乙狐巫安翁禰福神紅戸生全方獄獄生女官神	306	○	○	5
公前 中六 十山水某 札	218	○	○	75	御 秀公 愨 秀	170	○	○	14	紫菓醜銀姚采詩毛哥李老元周劉韓太新浙博一花	391	○	○	24
可 木 書債 撮 公小	219	○	○	87	御 秀公 愨 秀	106	○	○	31	原鄭東眞員	210	○	○	7
脂鏡灯賊鬼羅	220	○	○	30	御 秀公 愨 秀	101	○	○	12		215	○	○	14
擊射 狐作	221	○	○	22	御 秀公 愨 秀	114	○	○	7		222	○	○	15
	222	○	○	62	御 秀公 愨 秀	115	○	○	8		226	○	○	42
	223	○	○	35	御 秀公 愨 秀	90	○	○	21		370	○	○	9
	224	○	○	68	御 秀公 愨 秀	97	○	○	18		371	○	○	32
	225	○	○	106	御 秀公 愨 秀	123	○	○	4		372	○	○	24
	226	○	○	13	御 秀公 愨 秀	126	○	○	5		373	○	○	10
	227	○	○	12	御 秀公 愨 秀	141	○	○	20		374	○	○	13
	228	○	○	5	御 秀公 愨 秀	242	○	○	26		375	○	○	9
	229	○	○	6	御 秀公 愨 秀	137	○	○	10		376	○	○	8
	230	○	○	7	御 秀公 愨 秀	244	○	○	20		377	○	○	28
	231	○	○	5	御 秀公 愨 秀	248	○	○	9		378	○	○	13
	232	○	○	7	御 秀公 愨 秀	249	○	○	17		379	○	○	14
	233	○	○	3	御 秀公 愨 秀	250	○	○	13		380	○	○	5
	234	○	○	7	御 秀公 愨 秀	252	○	○	39		381	○	○	75
	235	○	○	33	御 秀公 愨 秀	260	○	○	7		382	○	○	9
	236	○	○	23	御 秀公 愨 秀	263	○	○	7		383	○	○	15
	237	○	○	44	御 秀公 愨 秀	367	○	○	5		384	○	○	10
	238	○	○	20	御 秀公 愨 秀	269	○	○	12		385	○	○	8
	239	○	○	23	御 秀公 愨 秀	270	○	○	24		386	○	○	11
	240	○	○	6	御 秀公 愨 秀	245	○	○	19		387	○	○	5
	241	○	○	27	御 秀公 愨 秀	256	○	○	43		388	○	○	13
	242	○	○	12	御 秀公 愨 秀	140	○	○	11		389	○	○	4
	243	○	○	16	御 秀公 愨 秀	271	○	○	11		390	○	○	15
	244	○	○	13	御 秀公 愨 秀	174	○	○	11		391	○	○	12
	245	○	○	52	御 秀公 愨 秀	191	○	○	11		392	○	○	12
	246	○	○	35	御 秀公 愨 秀	357	○	○	6		393	○	○	43
	247	○	○	16	御 秀公 愨 秀	45	○	○	9		394	○	○	33
	248	○	○	10	御 秀公 愨 秀	46	○	○	10		395	○	○	26
	249	○	○	26	御 秀公 愨 秀	51	○	○	10		396	○	○	12
	250	○	○	31	御 秀公 愨 秀	54	○	○	11		397	○	○	15
	251	○	○	11	御 秀公 愨 秀	56	○	○	10		398	○	○	47
	252	○	○	10	御 秀公 愨 秀	65	○	○	5		399	○	○	15
	253	○	○	40	御 秀公 愨 秀	73	○	○	13		400	○	○	23
	254	○	○	18	御 秀公 愨 秀	80	○	○	13		401	○	○	51
	255	○	○	9	御 秀公 愨 秀	82	○	○	10		402	○	○	11
	256	○	○	7	御 秀公 愨 秀	86	○	○	9		403	○	○	7
	257	○	○	10	御 秀公 愨 秀	419	○	○	6		404	○	○	8
	258	○	○	32	御 秀公 愨 秀	420	○	○	5		405	○	○	27
	259	○	○	19	御 秀公 愨 秀	421	○	○	6		406	○	○	18
	260	○	○	76	御 秀公 愨 秀	422	○	○	6		407	○	○	9
	261	○	○	7	御 秀公 愨 秀	427	○	○	4		408	○	○	14
	262	○	○	13	御 秀公 愨 秀	450	○	○	3		409	○	○	63
	263	○	○	24	御 秀公 愨 秀	151	○	○	22		410	○	○	13
	264	○	○	29	御 秀公 愨 秀	157	○	○	3		411	○	○	6
	265	○	○	39	御 秀公 愨 秀	473	○	○	10		412	○	○	10
	266	○	○	12	御 秀公 愨 秀	209	○	○	3		413	○	○	10
	267	○	○	7	御 秀公 愨 秀	160	○	○	154		414	○	○	14
	268	○	○	10	御 秀公 愨 秀	184	○	○	44		415	○	○	26
	269	○	○	19	御 秀公 愨 秀	188	○	○	26		416	○	○	45
	270	○	○	27	御 秀公 愨 秀	178	○	○	21		417	○	○	19
	271	○	○	12	御 秀公 愨 秀	179	○	○	18		418	○	○	23
	272	○	○	78	御 秀公 愨 秀	190	○	○	33		419	○	○	28
	273	○	○	8	御 秀公 愨 秀	189	○	○	18		420	○	○	21
	274	○	○	9	御 秀公 愨 秀	196	○	○	18		421	○	○	18
	275	○	○	25	御 秀公 愨 秀	199	○	○	25		422	○	○	21
	276	○	○	33	御 秀公 愨 秀	200	○	○	23		423	○	○	16
	277	○	○	9	御 秀公 愨 秀	201	○	○	21		424	○	○	17
	278	○	○	15	御 秀公 愨 秀	203	○	○	10		425	○	○	11
	279	○	○	3	御 秀公 愨 秀	334	○	○	24		426	○	○	29
	280	○	○	129	御 秀公 愨 秀	337	○	○	10		427	○	○	14
	281	○	○	16	御 秀公 愨 秀	346	○	○	8		428	○	○	19
	282	○	○	24	御 秀公 愨 秀	275	○	○	4		429	○	○	18
	283	○	○	14	御 秀公 愨 秀	276	○	○	25		430	○	○	16
	284	○	○	21	御 秀公 愨 秀	282	○	○	13		431	○	○	6
	285	○	○	24	御 秀公 愨 秀	291	○	○	14		432	○	○	11
	286	○	○	5	御 秀公 愨 秀	294	○	○	11		433	○	○	77

注) 一は鈔本不載の篇 *は青本前12巻の巻末補充篇

表2 铸本青本篇次No.对照表

铸No.	篇名	前12	後4	铸No.	篇名	前12	後4	铸No.	篇名	前12	後4	铸No.	篇名	前12	後4
1	考耳			69	宝山狐	29		137	柳水			205	彭海	140	
2	城		382	70	王化	---	253	138	秀城	*60		206	秋氏		397
3	人		241	71	州	---	---	139	某御	*61		207	氏彦		398
4	人		242	72	州	31		140	都無		315	肉令	*39		340
5	人			73	州	32	327	141	無		300	甫星			366
6	人			74	州	---	---	142	無		---	210	介	175	
7	人		243	75	州	---	---	143	無	82		211	將	---	---
8	人		383	76	州	---	---	144	無	281		212	閻	---	---
9	人		384	77	州	*114	236	145	無	283		213	翠	*211	
10	人		244	78	州	40	254	146	無	270		214	閻		432
11	人		391	79	州	41		147	無			215	閻		367
12	人		245	80	州	42	328	148	無			216	閻	176	
13	人		235	81	州	43		149	無			217	閻	*207	
14	人			82	州	44	329	150	無	84		218	閻	*208	
15	人			83	州	---	---	151	無			219	閻	*97	
16	人		246	84	州	---	---	152	無	85		220	閻	---	---
17	人		385	85	州	---	---	153	無	86		221	閻	177	
18	人		---	86	州	*78	330	154	無			222	閻	---	368
19	人		---	87	州	*33		155	無			223	閻	178	
20	人		247	88	州	*79		156	無			224	閻	---	---
21	人			89	州		296	157	無			225	閻	---	---
22	人			90	州	89		158	無	87		226	閻	---	369
23	人		248	91	州	90		159	無			227	閻	371	
24	人			92	州	91		160	無	341		228	閻	393	
25	人		386	93	州		395	161	無	*35		229	閻	372	
26	人		249	94	州		286	162	無	*36		230	閻	*209	
27	人		387	95	州	92		163	無			231	閻	179	
28	人		389	96	州	93	297	164	無			232	閻	*210	
29	人		390	97	州	94		165	無			233	閻	180	
30	人			98	州	*80	293	166	無			234	閻	---	---
31	人		252	99	州	95		167	無	*37		235	閻	*227	
32	人			100	州	100		168	無			236	閻	---	---
33	人		392	101	州	*81		169	無			237	閻	191	
34	人		237	102	州	101	292	170	無	*38		238	閻	400	
35	人		320	103	州	102	388	171	無			239	閻	401	
36	人			104	州	103		172	無			240	閻	---	---
37	人			105	州	104	291	173	無	128		241	閻	---	---
38	人			106	州	---	---	174	無	317		242	閻	301	
39	人			107	州	98		175	無	*164		243	閻	117	
40	人			108	州	---	---	176	無	130		244	閻	303	
41	人			109	州	---	---	177	無	131		245	閻	313	
42	人			110	州	---	---	178	無			246	閻	118	
43	人			111	州	---	---	179	無	344		247	閻	*146	
44	人			112	州	---	---	180	無	345		248	閻	304	
45	人		321	113	州	---	---	181	無	132		249	閻	305	
46	人		322	114	州	---	---	182	無			250	閻	306	
47	人			115	州	99	295	183	無	342		251	閻	119	
48	人			116	州	*57		184	無			252	閻	307	
49	人			117	州	105		185	無	134		253	閻	120	
50	人		240	118	州	106		186	無	*166		254	閻	*62	
51	人		323	119	州	107		187	無	*167		255	閻	*162	
52	人		238	120	州	108		188	無			256	閻	---	---
53	人		239	121	州	108		189	無			257	閻	121	
54	人		324	122	州	*58	298	190	無			258	閻	122	
55	人			123	州	109		191	無			259	閻	*147	
56	人		325	124	州	115		192	無	*183		260	閻	308	
57	人			125	州	---	---	193	無	135		261	閻	123	
58	人		250	126	州	---	---	194	無	136		262	閻	124	
59	人			127	州	*129	299	195	無	137		263	閻	309	
60	人			128	州	---	---	196	無			264	閻	125	
61	人			129	州	---	---	197	無	138		265	閻	*163	
62	人			130	州	---	---	198	無			266	閻	---	---
63	人			131	州	---	---	199	無			267	閻	126	
64	人		255	132	州	---	---	200	無			268	閻	127	
65	人		326	133	州	---	---	201	無			269	閻	---	---
66	人			134	州	*59		202	無	*184		270	閻	311	
67	人			135	州	---	---	203	無			271	閻	312	
68	人			136	州	---	---	204	無	139		272	閻	316	

鑄No.	篇名	前12	後4	鑄No.	篇名	前12	後4	鑄No.	篇名	前12	後4
273	津島	---	---	343	軍士奴	---	---	413	青任	73	---
274	人羅道	142	---	344	陽父必	---	380	天蛙	74	---	
275	娘術	---	356	345	孫邑元	198	---	414	秋	30	---
276	術數	143	357	346	研武大	*229	355	415	三樓	75	---
277	獄令	144	---	347	張牧	---	404	416	雲札	76	---
278	后娘	*148	---	348	不司	---	---	417	怪人	45	---
279	繡眼	145	---	349	馬神	---	---	418	史	---	331
280	翠尚	158	358	350	梅僧	---	---	419	疑訓	---	332
281	尚珠	151	---	351	水諫	---	---	420	鬼成	46	333
282	珠寔	152	---	352	女蘇	*230	407	421	青氏	---	334
283	寔鬼	*185	---	353	蘇腸	---	---	422	女婦	---	---
284	官阿	153	---	354	漸飛	---	---	423	游受	---	---
285	楊小	*77	---	355	安在	---	---	424	積大	49	256
286	金童	*186	---	356	孀之	---	---	425	玉仙	50	---
287	童商	---	359	357	安獄	199	319	426	十男	---	---
288	閻役	---	---	358	大洪	---	---	427	人子	---	---
289	細細	187	---	359	洞島	---	---	428	子虛	47	258
290	局局	154	360	360	俗主	---	---	429	班夫	48	259
291	放男	---	---	361	語宮	200	---	430	仙生	---	---
292	男鍾	---	---	362	宮女	*231	---	431	客雷	---	---
293	鍾鬼	155	362	363	人狐	---	---	432	福神	---	---
294	黃三	---	---	364	郎童	201	374	433	釘戸	---	---
295	醫威	*188	363	365	童生	---	---	434	瓶生	---	---
296	夢夜	---	---	366	商神	---	---	435	娘成	---	---
297	夏夏	*189	---	367	何神	---	---	436	成庵	---	---
298	化禽	---	---	368	神湖	---	---	437	附生	---	---
299	鴻象	---	364	369	三長	215	---	438	良全	---	---
300	和	---	---	370	席素	---	---	439	兔使	---	---
301	花	---	---	371	賣騰	---	---	440	生報	---	---
302	克	---	---	372	瑞瑞	149	---	441	夏方	---	---
303	藥	---	---	373	仇曹	*190	---	442	針侯	---	---
304	生	---	---	374	曹曹	157	---	443	蝶斯	---	---
305	將	---	---	375	飛相	174	---	444	蝶斯	---	---
306	朝	---	---	376	大	---	---	445	蝶斯	---	---
307	元	---	---	377	飛相	---	---	446	蝶斯	---	---
308	元	---	---	378	飛相	---	---	447	蝶斯	---	---
309	元	---	---	379	飛相	---	---	448	蝶斯	---	---
310	元	---	---	380	飛相	---	---	449	蝶斯	---	---
311	元	---	---	381	飛相	---	---	450	蝶斯	---	---
312	元	---	---	382	飛相	---	---	451	蝶斯	---	---
313	元	---	---	383	飛相	---	---	452	蝶斯	---	---
314	元	---	---	384	飛相	---	---	453	蝶斯	---	---
315	元	---	---	385	飛相	---	---	454	蝶斯	---	---
316	元	---	---	386	飛相	---	---	455	蝶斯	---	---
317	元	---	---	387	飛相	---	---	456	蝶斯	---	---
318	元	---	---	388	飛相	---	---	457	蝶斯	---	---
319	元	---	---	389	飛相	---	---	458	蝶斯	---	---
320	元	---	---	390	飛相	---	---	459	蝶斯	---	---
321	元	---	---	391	飛相	---	---	460	蝶斯	---	---
322	元	---	---	392	飛相	---	---	461	蝶斯	---	---
323	元	---	---	393	飛相	---	---	462	蝶斯	---	---
324	元	---	---	394	飛相	---	---	463	蝶斯	---	---
325	元	---	---	395	飛相	---	---	464	蝶斯	---	---
326	元	---	---	396	飛相	---	---	465	蝶斯	---	---
327	元	---	---	397	飛相	---	---	466	蝶斯	---	---
328	元	---	---	398	飛相	---	---	467	蝶斯	---	---
329	元	---	---	399	飛相	---	---	468	蝶斯	---	---
330	元	---	---	400	飛相	---	---	469	蝶斯	---	---
331	元	---	---	401	飛相	---	---	470	蝶斯	---	---
332	元	---	---	402	飛相	---	---	471	蝶斯	---	---
333	元	---	---	403	飛相	---	---	472	蝶斯	---	---
334	元	---	---	404	飛相	---	---	473	蝶斯	---	---
335	元	---	---	405	飛相	---	---	474	蝶斯	---	---
336	元	---	---	406	飛相	---	---	475	蝶斯	---	---
337	元	---	---	407	飛相	---	---	476	蝶斯	---	---
338	元	---	---	408	飛相	---	---	477	蝶斯	---	---
339	元	---	---	409	飛相	---	---	478	蝶斯	---	---
340	元	---	---	410	飛相	---	---	479	蝶斯	---	---
341	元	---	---	411	飛相	---	---	480	蝶斯	---	---
342	元	---	---	412	飛相	---	---	481	蝶斯	---	---
								482	蝶斯	---	---

先淑松生女官 卷の未補充
 家文 東興貞前さ本本界 12巻に分割し
 李房泰新博一 本用青鏡境 16巻に分割し
 青使はた

表3 仮想底本篇次青本帰属表

仮想 底本 No.	前 12 No.	後 4 No.	仮想 底本 No.	前 12 No.	後 4 No.	仮想 底本 No.	前 12 No.	後 4 No.	仮想 底本 No.	前 12 No.	後 4 No.	仮想 底本 No.	前 12 No.	後 4 No.	仮想 底本 No.	前 12 No.	後 4 No.
1			70		253	417		76	124	109	193	207		398	366		374
2		382	71			142			125	115	194	208	*39	巻2	367		310
3		241	72	31		143	82		126	299	195	209		340	368		406
4		242	73		327	144		282	127	129	196	210		366	369		
5			74	32		145		283	128		197	211	175		370		375
6			75			146		270	129		198	212			371		408
7		243	76		236	147	56		130	110	199	213	*211	巻11	372		376
8		383	77	*114	巻	148			131	112	200	214		432	373		409
9		384	78		254	149			132	111	201	215		367	374		378
10		244	79	40		149			133		202	216	176	巻10	375		379
11		391	80		328	150	84		134	*59	巻3	203	*207	巻11	376		377
12		245	81	41		151		337	135	113	204	217	*208	巻11	377	215	
13		235	82		329	152	85		136	116	205	218	*97	巻5	378		
14			83	42		153	86		137		302	220			【巻15】		
15			84	43		154		282	138	*64	巻3	274	142		308		410
16			85	44		155		284	139	*61	巻3	275		356	309		411
17		246	86		330	156		269	140		315	276		357	310		412
18		385	87			157		338	141		300	277			311	*232	巻12
19			88	45		158		285	142		【巻9】	278	144		312		413
20		247	89		331	159	87		242		301	279	*148	巻8	313	182	
21			90		332	160			243	117		280	145		371	314	202
22			91		333	161	*35	巻2	244		303	281	158		372	315	*233
23			92		334	162	*36	巻2	245		313	282		358	373	316	203
24		248	93	46		163		268	246		118	283	150		317	*234	巻12
25			94		256	164			247	*146	巻8	284	151		318		414
26		386	95			165		287	248		304	285	152		319	204	
27		249	96		257	166		289	249		305	286	*185	巻10	320	212	
28		387	97		335	167		288	250		306	287	153		321		415
29		391	98	47		168	*37	巻2	251	119		288	*77	巻3	322	213	
30		389	99	48		169			252		307	289	*186	巻10	323		416
31		390	100		258	170			253	120		290	154		324		417
32			101		259	171	*38	巻2	254	*62	巻3	291		359	325		418
33		252	102			172		271	255	*162	巻9	292	*187	巻10	326	214	
34			103			173		【巻7】	256			293	154		327		419
35		392	104		261	87	*78	巻4	257	121		294		360	328		
36			105		262	88	*33	巻2	258	122		295		272	【巻14】		
37		327	106		260	89	*79	巻4	259	*147	巻8	296		361	330	192	【巻16】
38		320	107			90		296	260		308	297			331	402	454
39			108	49		91	89		261	123		298	155		332	193	455
40			109	50		92	90		262	124		299		362	333		456
41			110	*34	巻1	93	91		263		309	300			334	353	457
42			111			94		395	264	125		301	*188	巻1	335	181	458
43			112		263	95		286	265		163	302		363	336	194	459
44			113	51		96	92		266			303			337		460
45			114			97		297	267	126		304	156		338	195	461
46		321	115		276	98	93		268	127		305	*189	巻10	339	*228	巻12
47		322	116			99	94		269		311	306		364	340		462
48			117			100	*80	巻4	270		312	307			341	196	463
49			118			101		293	271		316	【巻12】			342	197	464
50			119		264	102	95		272	*168	巻9	317	149		343		465
51		240	120			103	100		273			318	*190	巻10	344		466
52		323	121		267	104	*81	巻4	【巻10】			319			345	198	467
53		238	122			105	101		173	128		320			346		468
54		239	123			106		292	174		317	321			347	*229	巻12
55		324	124			107		388	175	*164	巻9	322	160		348		404
56			125	63		108	102		176	130		323			349		
57		20	126	64		109	103		177	131		324			350		
58		325	127	88		110	104		178		344	325			351		
59			128		273	111		291	179		345	326			352		
60		250	129	65		112		【巻8】	180	132		327	*205	巻11	353	*230	巻12
61			130	66		113			181			328	*206	巻11	354		407
62			131	67		114			182	*165	巻9	329			355		
63			132	68		115		294	183	133		330			356		
64			133	69		116		295	184		342	331			357		
65			134			117	99		185	134		332			358	199	
66		255	135		266	118		*57	186	*166	巻9	333			359		373
67		326	136	71		119	105	巻3	187	*167	巻9	334			360		405
68			137	72		120	106		188		343	335			361		
69			138	73		121	107		189		347	336			362	200	
70			139	74	265	122	108		190		346	337			363	*231	巻12
71			140	75		123		*58	191		318	【巻13】			364		
72			141			124			192	*183	巻10	206			365	201	

注) ---は青本不載篇 *は青本前12巻巻末補充の篇で右にその巻数を記した。

表4 青本後4卷諸篇歸屬表

【卷1 3】		【卷1 4】		【卷1 5】		【卷1 6】	
青本	鑄本	青本	鑄本	青本	鑄本	青本	鑄本
235	13 (1)	280	399 (12)	341	160 (6)	393	228 (13)
236	76 (3)	281	144 (6)	342	184 (10)	394	388 (12)
237	36 (2)	282	154 (6)	343	188 (10)	395	94 (7)
238	52 (2)	283	145 (6)	344	178 (10)	396	386 (12)
239	53 (2)	284	155 (6)	345	179 (10)	397	206 (13)
240	50 (2)	285	158 (6)	346	190 (10)	398	207 (13)
241	3 (1)	286	95 (7)	347	189 (10)	399	231 (13)
242	4 (1)	287	165 (6)	348	196 (10)	400	239 (13)
243	7 (1)	288	167 (6)	349	199 (10)	401	240 (13)
244	10 (1)	289	166 (6)	350	200 (10)	402	331 (14)
245	12 (1)	290	170 (6)	351	201 (10)	403	333 (14)
246	17 (1)	291	111 (7)	352	203 (10)	404	348 (14)
247	20 (1)	292	106 (7)	353	334 (14)	405	360 (14)
248	23 (1)	293	101 (7)	354	337 (14)	406	368 (14)
249	26 (1)	294	114 (8)	355	346 (14)	407	354 (14)
250	58 (2)	295	115 (8)	356	275 (11)	408	371 (14)
251	28 (1)	296	90 (7)	357	276 (11)	409	373 (14)
252	32 (1)	297	97 (7)	358	282 (11)	410	308 (15)
253	70 (3)	298	123 (8)	359	291 (11)	411	309 (15)
254	78 (3)	299	126 (8)	360	294 (11)	412	310 (15)
255	64 (3)	300	141 (8)	361	296 (11)	413	312 (15)
256	424 (4)	301	242 (9)	362	299 (11)	414	318 (15)
257	426 (4)	302	173 (8)	363	302 (11)	415	321 (15)
258	430 (4)	303	244 (9)	364	306 (11)	416	323 (15)
259	431 (4)	304	248 (9)	365	391 (12)	417	324 (15)
260	437 (4)	305	249 (9)	366	210 (13)	418	325 (15)
261	434 (4)	306	259 (9)	367	215 (13)	419	327 (15)
262	435 (4)	307	252 (9)	368	222 (13)	420	455 (16)
263	442 (4)	308	260 (9)	369	226 (13)	421	456 (16)
264	449 (4)	309	263 (9)	370	352 (14)	422	457 (16)
265	414 (5)	310	367 (14)	371	227 (13)	423	458 (16)
266	410 (5)	311	269 (9)	372	229 (13)	424	462 (16)
267	451 (4)	312	270 (9)	373	359 (14)	425	467 (16)
268	163 (6)	313	245 (9)	374	366 (14)	426	469 (16)
269	156 (6)	314	256 (9)	375	370 (14)	427	475 (16)
270	146 (6)	315	140 (8)	376	372 (14)	428	481 (16)
271	172 (6)	316	271 (9)	377	376 (14)	429	482 (16)
272	195 (11)	317	174 (10)	378	374 (14)	430	486 (16)
273	403 (5)	318	191 (10)	379	375 (14)	431	487 (16)
274	198 (10)	319	357 (14)	380	344 (14)	432	488 (16)
275	----	320	37 (2)	381	----	433	214 (13)
276	445 (4)	321	45 (2)	382	2 (1)		
277	454 (16)	322	46 (2)	383	8 (1)		
278	461 (16)	323	51 (2)	384	9 (1)		
279	485 (16)	324	54 (2)	385	18 (1)		
		325	56 (2)	386	25 (1)		
		326	65 (3)	387	27 (1)		
		327	73 (3)	388	107 (7)		
		328	80 (3)	389	29 (1)		
		329	82 (3)	390	30 (1)		
		330	86 (3)	391	11 (1)		
		331	419 (4)	392	35 (1)		
		332	420 (4)				
		333	421 (4)				
		334	422 (4)				
		335	427 (4)				
		336	450 (4)				
		337	151 (6)				
		338	157 (6)				
		339	473 (16)				
		340	209 (13)				

() = 仮想底本巻次
 ---- = 鑄本不載篇